姫路市北部農山村地域活性化拠点施設整備方針
概要版

背景と目的

姫路市北部農山村地域（夢前町及び安富町）の活性化を目指して、平成 28 年度に「姫路市北部農山村地域活性化構想」を策定し、平成 30 年度からは「姫路市北部農山村地域活性化基本計画（以下「基本計画」という。）」を策定した。この基本計画では、「地形や特性を生かした産業振興や地域の活性化のための拠点づくり」を施策のひとつとしており、地域のランドマークとして魅力ある情報を集約・発信し、ヒト・モノ・コトが集まるプラットホームとして、拠点整備を検討するものである。

本整備方針では、その拠点を具現化するための前提条件の整理、対象地の選定、拠点整備の基本的な考え方、施設の整備方針、導入機能等を明確にすることを目的とする。

拠点整備の必要性

○**統計**：夢前スマートインターチェンジの利用台数が計画を大きく上回った。
（計画 700 台/日→1,230 台/日）

➡ 本市における北の玄関口として、地域活性化に向けての様々な機能を充実させた拠点整備が必要

○**周辺環境**：豊かな自然環境、貴重な歴史文化遺産が点在しており、農や健康にまつわる拠点も近年整備されている。

➡ 地域活性化に向けて情報を集約・発信するプラットホームとなる拠点を整備することが必要
➡ 地域資源をネットワーク化させ、地域全体での魅力向上に取り組むことが必要

○**プロジェクト検討会での意見**：地域農産物の販売をとおして、都市部住民と交流する場がほしい。

➡ 地域農産物の販売をとおして顔の見える業の展開や都市部住民との交流による情報交換の場が必要

○**モニターツアーでの意見**：地域住民にとって当たり前の風景などの資源が地域外の方には魅力的なものとなっているにも関わらず、周知不足のため、地域外での認知度が低い。また、様々な体験施設が少ない。

➡ 地域情報を集約して効果的に発信するとともに、体験できる場を整備することが必要

基本的な方針

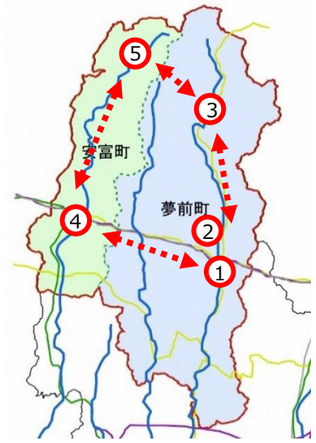
姫路市北部農山村地域活性化拠点施設は、地域情報の発信拠点に加え、自然環境に触れることができる体験型施設、地域農産物等の販売施設や都市住民との交流の場など、地域の活性化に寄与する施設とする。

なお、拠点施設の候補地として選定した５ヶ所の各施設等がそれぞれの特性を活かし、連携していくことで、北部農山村地域の更なる活性化につなげていく。

姫路市北部農山村地域活性化拠点施設の基本方針

- ■従前の自然・地形・施設を最大限に活用した地域活性化拠点として整備する
- ■北部農山村地域の自然、風土、歴史等の地域資源に触れ、年間を通じて楽しめる空間とする
- ■北部農山村地域の情報を一元化し、地域内外に発信する
- ■点在する地域資源のネットワークや連携体制を構築するとともに、観光客との交流促進機能を備える
- ■地域住民が気軽に集い交流し、賑わいが創出される拠点として整備する
- ■安全で安心して食べられる農産物等を提供し、農林業振興を促進する

拠点施設の候補地



	候補地	選定理由
①	夢前スマートインターチェンジ周辺	・スマート IC に近く交通利便性に優れており、周囲には生活利便施設も集中している。 ・基本計画において拠点整備を検討することとしている。
②	夢さき夢のさと夢やかた周辺	・そば打ち体験等ができる既存施設の活用、隣接する明神山の登山者やイベント実施による交流人口の増加が期待できる。
③	山之内地域	・中山間地域の北部に位置し、幹線道路まで遠いが、ハーブの収穫体験や農家レストランが開設される等、活性化の拠点が整いつつある。
④	安富ゆず工房周辺	・直売所及び加工所が国道に面しており、地域の情報発信拠点となり得る。 ・周囲には生活利便施設が点在している。
⑤	グリーンステーション鹿ヶ壺周辺	・中山間地域の北部に位置し、近隣には魅力的な観光資源がある。 ・既存の施設を活用した交流人口の増加が期待できる。

◀･･･▶ ：各拠点の連携により、地域情報の発信、回遊性の向上、地域資源のネットワーク化、地域全体での賑わいの創出を目指す

エリアデザイン方針

①環境の保全・創出の方針

北部農山村地域の優れた景観を保全・継承し、さらに向上発展させるため、眺望・風景に与える影響が大きい大規模な建築物や広告物については抑制し、山林や谷筋、丘陵部の豊かな自然環境を保全し、市街地や集落と調和した姫路らしい景観を形づくる山並み景観を保全・育成する。

②景観・意匠・空間構成の方針

田園森林環境を生かしたまちづくりや都市と農村の交流などを進め、農地、集落、里山等が調和した元気で美しい田園集落地景観の形成を図るとともに、うるおいと親しみのある景観、自然とアメニティあふれる景観の形成に努め、自然豊かで憩いやレクリエーションの場となる地域景観の拠点の整備・維持管理を図る。

また、夢前スマートインターチェンジは姫路市北部地域の玄関口であり、県道 23 号線は地域の主要な生活道路かつ地域の観光施設への入口にあたる道路であることから、地域住民や地域外住民、市外観光客の利便性向上と、地域の景観特性、周囲環境と調和した、一体的かつ連続的な沿道景観づくりを促進する。

整備に向けた課題の整理

（１）適正な施設規模の検討

・利用ニーズ、管理ニーズを踏まえ、適切な規模を検討することが必要である。
・各機能を十分に発揮できるよう、周辺施設との関係性や連携を踏まえ、諸室の配置計画や動線計画について検討する必要がある。

（２）施設管理・運営についての検討

・多様な主体が計画の策定段階から参画し、整備や運営の両面で役割を分担し合うとともに、人々を惹きつける地域資源の新たな魅力づくりを進めていくなど、効率的で効果的な事業の推進を図っていくことが重要となる。
・公民連携（PPP）に代表される、民間の知恵と資金の積極的な導入により効果的な公共投資を実施するなど、今後、多様な主体が参画可能な仕組みづくりや手法の活用等を検討していく必要がある。

（３）地域全体の活性化

・拠点施設のみで魅力訴求するのではなく、地域全体で活性化に取り組んでいくことが必要である。

（４）補助金等の活用

・本施設は、姫路市北部農山村地域の活性化拠点として、自然、風土、歴史等の魅力的な地域資源や四季を感じられる自然環境を積極的に取り込んだ施設の整備を図るものであり、国庫補助金等の活用の検討が必要である。

（５）法規制への対応

・地域資源や自然環境等の魅力を活かすとともに良好な景観づくりを進めることが必要であることから、都市計画法や農業振興地域の整備に関する法律などの各種法律の適切な運用により、適正かつ合理的な土地利用が図られるよう配慮する必要がある。

核となる拠点施設の候補地と導入機能及びゾーニング（イメージ）

基本方針に加えて、ヒト・モノ・コトが集まるプラットホーム的役割を担えること、従前からの各施設の方向性や特徴とを考え合わせ、夢前町と安富町の核となる拠点施設の候補地を、以下のとおりそれぞれ一箇所ずつ選定した。

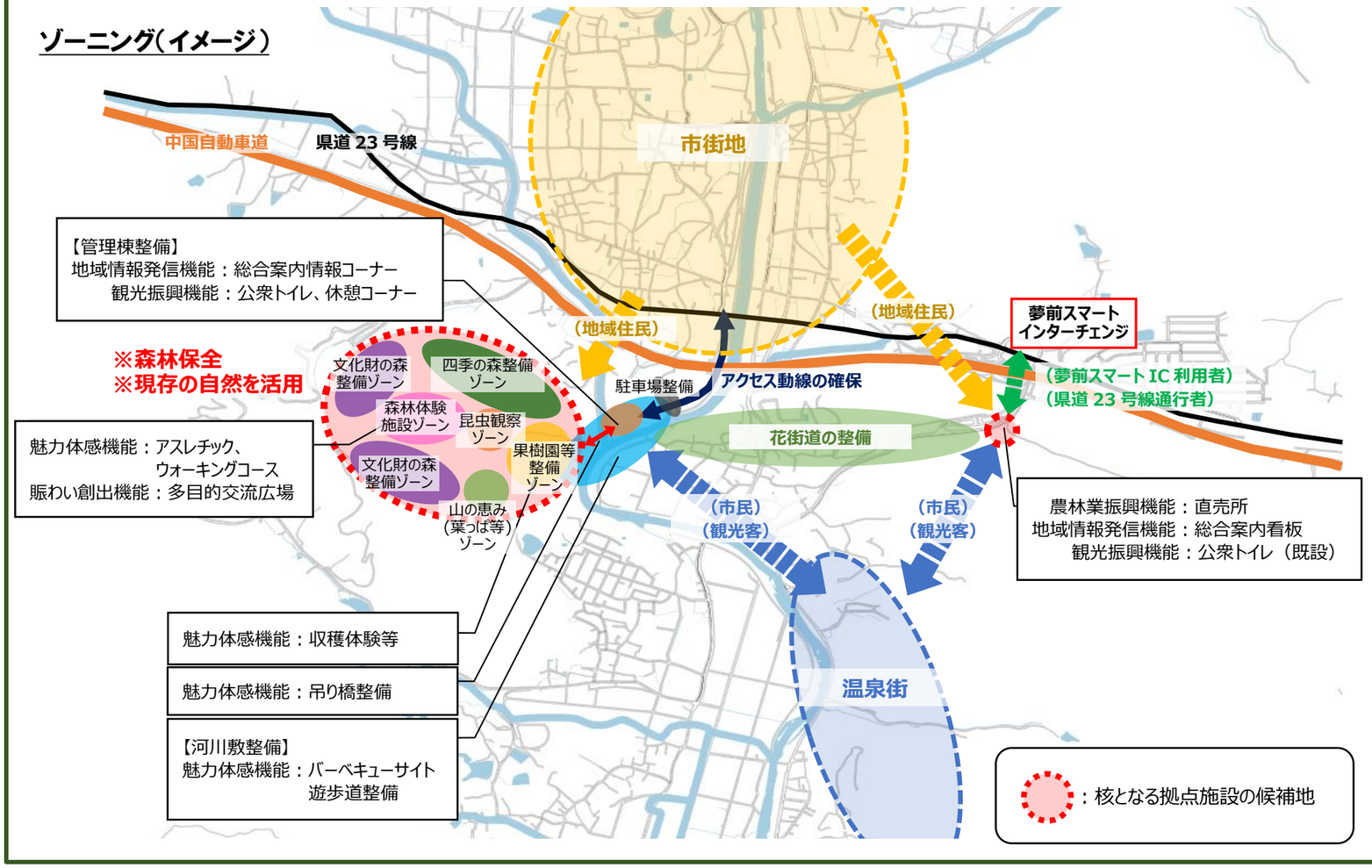
夢前スマートインターチェンジ周辺

所在地	姫路市夢前町前之庄
地　域	夢前川・菅生川流域
用途地域	都市計画区域外
現　況	ア 山林、河川、農地 イ 駐車場等
特　性	ア 山林、河川、農地 夢前スマート IC に近い広大な山林、河川、農地など変化に富んだ自然環境を有する用地である。また、主要幹線道路にもほど近く、自動車交通の便が良い。周辺には、コンビニや飲食店、病院など生活利便施設に加え、塩田温泉や壺坂酒造、新庄の桜並木などの魅力ある地域資源が豊富にある。 イ 駐車場等 夢前スマート IC 隣接の用地で、主要幹線道路にも面しており、自動車交通の便が特に良い。既にトイレが整備されおり、その他の周辺環境は、アと同様。

コンセプト	北部農山村地域のプラットホーム
ターゲット	夢前スマート IC・県道 23 号線通行者、地域内外の住民、観光客
個別整備方針	北部農山村地域の情報を一元化し、地域内外の人々に発信する施設とする。 自然環境の魅力を活かし、自然と融合した施設を新たに整備する。

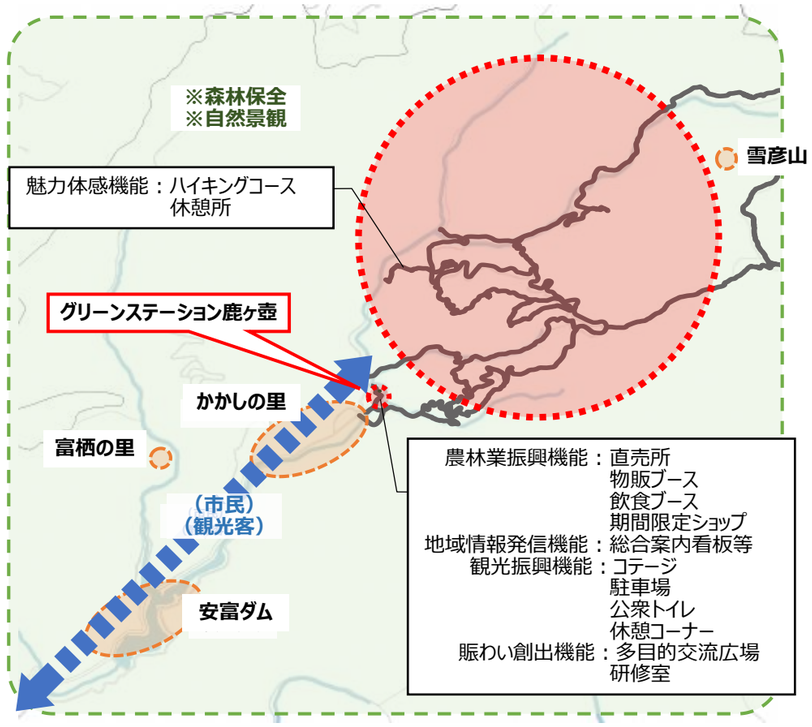
機能	施設等
魅力体感機能	体験施設
農林業振興機能	直売所
地域情報発信機能	総合案内
観光振興機能	駐車場
	公衆トイレ
賑わい創出機能	多目的交流広場

ゾーニング（イメージ）



グリーンステーション鹿ヶ壺周辺

所在地	姫路市安富町関
地　域	林田川流域
用途地域	都市計画区域外
現　況	野外活動施設（公共施設）を含む林道や山林
特　性	中山間地域の北部に位置する公共施設で、施設内には食堂や売店等がある。また、バス停があり公共交通でのアクセスが可能。奥播磨かかしの里や三ヶ谷の滝などの観光資源を有し、宿泊設備も充実している。

コンセプト	北部農山村地域の広大な自然を体験
ターゲット	地域内外の住民、観光客
個別整備方針	既存施設の居室や空きスペースを有効活用しながら適切に管理し、地域振興及び観光施設として内容の充実を図る。 施設更新時には別用途での使用も可能な施設として整備する。 宿泊施設の整備については、施設の所管を含め検討していく。

機能	施設等	機能	施設等
魅力体感機能	体験施設	観光振興機能	コテージ
農林業振興機能	直売所		駐車場
	物販ブース		公衆トイレ
	飲食ブース		休憩コーナー
	期間限定ショップ	賑わい創出機能	多目的交流広場
地域情報発信機能	総合案内板		研修室